

|         |                                    |      |              |
|---------|------------------------------------|------|--------------|
| 研究テーマ   | 本県ニホンジカ由来の皮・角を素材とした高付加価値製品の開発（第3報） |      |              |
| 担当者（所属） | 申田賢一・秋本梨恵（デザイン）                    |      |              |
| 研究区分    | 最重点化研究                             | 研究期間 | 平成29年度～令和元年度 |

### 【背景・目的】

近年、山梨県ではニホンジカによる森林・農業被害が深刻化しており、県では被害低減に向け第二種特定鳥獣管理計画に基づき捕獲を進め、個体数調整に取り組んでいる。

捕獲されたニホンジカのほとんどは廃棄処分されており、食用として流通しているわずかな量のニホンジカについても、食肉加工の残渣となる皮や角は廃棄処分されているのが現状である。

一方、本県には甲州印伝や宝飾加工といった産業の集積があり、ニホンジカの皮や角を高度に利用し、新しい製品を創り出すことができる独自の産業背景がある。

本研究は、こうした本県独自の強みを生かし、ニホンジカ由来の素材から高付加価値製品と製品ブランドを創り出すことで、社会的課題の解決と産業の振興を結び付け、県及び本県産業を広くPRするとともに、新たな市場を獲得することを目的として実施した。

### 【得られた成果】

#### 1. 鹿なめし革表面の防汚性の向上

白鹿革の防汚性を高めるため、漆加工が可能で、かつ、革の白色度に影響を及ぼさないような撥水・撥油加工方法について検討を行った。

その結果、JIS L1919（繊維製品の防汚性試験方法）に基づく試験において、油性汚染物質については4級評価、水性汚染物質については、60分静置した試験においても汚染のない加工を実現することができた（図1）

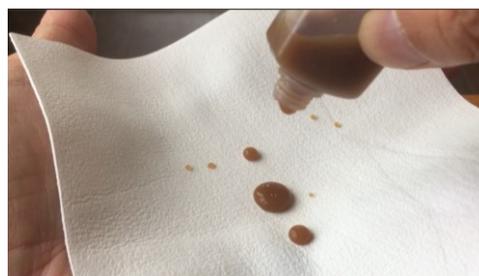


図1 水性汚染物質による試験風景

#### 2. 新しい印伝柄及び試作品の作製

次の試作開発を行った。（図2）

- 印伝柄 | 6種 13点（カモフラ、グラデーション等）
- 鹿革製品 | 7種 20点（デジタルガジェット用ケース等）
- 鹿角製品 | 1種 3点（チーズナイフ兼フォーク）

#### 3. 展示発表及び消費者の受容性評価の実施

試作品を用い、本県の取組の情報発信を行うとともに、バイヤー等に対する受容性評価を行った。

- 出展先：Sian PR合同展示会
- 期 日：令和2年3月10日（火）～20日（金）
- 場 所：Sian PR 3F（東京都渋谷区渋谷）
- 来場者：BEAMS, フリークスストア, TOKYOBASE, KAWANO, Laid-back, UNITED NINEほか
- 媒 体：MensNON-NO編集部, 集英社WEB編集部, 毎日新聞, 日の出出版, SENSE編集部ほか
- 評 価：・クリーンなものづくり、サステイナブルなどへの関心を背景として、コンセプトや製品デザインに対するスムーズな理解と評価が得られた。
- ・ホワイトの仕上げ、漆文様による表面の独特の質感などに高い評価が得られた。

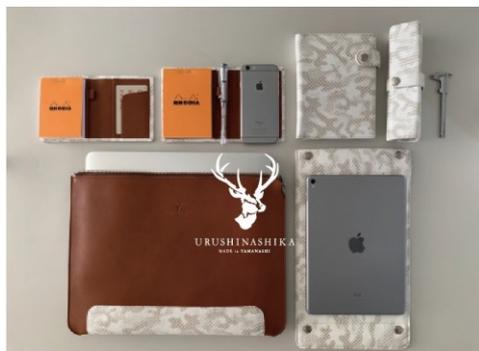


図2 開発した試作品（一部）

### 【成果の応用範囲・留意点】

- 調製したなめし革や試作品に対する評価は良好であり、一定の市場性が見込める。
- 印伝業界への技術移転を進めるとともに、県のジビエ食肉認証制度と連携することで、ニホンジカ由来の素材調達～製品化までのサプライチェーンを確固たるものとし、事業化に努めていく。